

竹の台地域委員会 「高齢」にかかわる勉強会
めざせ！ Happy100 年人生
第 4 回「介護者の方の体験談をきく」 要旨

- 1 日 時：平成 30 年 9 月 15 日（土）13：30～15：00
- 2 場 所：たけのパーク フリースペース
- 3 参加者：16 名
- 4 講 師：西神中央あんしんすこやかセンター 木下氏・藤本氏
介護の経験がある方 お二人
- 5 主な内容
 - (1) 筧委員長あいさつ
 - ・人生 100 年時代を迎え、まちづくりの観点から勉強会を実施している。これまで、認知症や介護保険などの勉強をしてきたが、今回は、実際に介護をされている方からの体験談をお聞きしながら、交流会形式での話し合いがしたい。
 - (2) 体験談
 - ・木下氏の進行のもと、西神中央あんしんすこやかセンターの「リフレッシュ教室」に参加されているお二方より、体験談をお話いただいた。
 - ①
 - ・妻が料理をつくれなくなったことが発端で、「ものわすれ外来」を受診。「若年性アルツハイマー症」と診断され、3 年間服薬・通院を続けた。
 - ・その後、あんしんすこやかセンターに相談し、要介護認定手続を行ったところ、「要介護 2」に認定され、認知症対応型デイサービスを受けることとなった。
 - ・だんだん症状が進み、車いすや介護用ベッドの貸与などを受けるようになり、週 2 回のデイサービスのほか、2 泊 3 日のショートステイに行くようになった。
 - ・寝たきり状態になり、在宅介護の限界を感じたため、5 泊 6 日に延長してもらい、2 カ月の入所待ち期間を経て、特別養護老人ホームに入所した。
 - ・この間、「リフレッシュ教室」や、「土曜のおひさま」という同じ症状の家族の介護をしている人の集まりに参加し、“介護仲間”がたくさんでき、情報も入って助かった。
 - ②
 - ・別の場所に住んでいる父がアルツハイマー症、母がレビー症ということで、“認認介護”の状態となっており、非常に苦労している。
 - ・父が 3 分前にした話を繰り返すようになるなど様子がおかしくなったため、総合病院の脳神経科を受診したが認知症とは断定されなかった。あんしんすこやかセンターに相談し、「要支援」の認定を受けた。
 - ・母もストレスがたまったのか、弟の顔を識別できなくなり、認知症専門外来を受診後、「要支援」の認定を受けた。
 - ・その後、父母とも、ヘルパーの来る時間も忘れがちになるなどなったため、ケアマネと相談して再申請し「要介護 1」となった。
 - ・今は、週 1～2 回、病院に連れて行ったり、身の回りの世話をしに行ったりしている。
 - ・父とは金銭的な問題で対立することもあり、しんどい思いもしたが、怒りをぶつけても

悪循環になるだけと“心の距離”をおくことで、少し楽になった。

- ・「リフレッシュ教室」に通うようになって、同じ立場の人と経験や気持ちの共有ができるようになり、「世話をさせてもらって有難い」という気持ちが芽生えかけている。

(3) 質疑等

- ・受け止められるようになるまで、どうだったか？

→ とまどい、混乱、怒り、割り切り、受容と気持ちが段階的に進んだ。

→ よかれと思ったことが裏目に出てつらかったが、相手も不安だから怒るのだと思い、認めてほめる接し方に変えた。

- ・協力してくれる人や相談する人はいたのか？

→ 病院や「土曜のおひさま」の会に行くときには、長女と次女が助けてくれた。

→ 友人に介護経験者がおらず、弟がいるが新婚で巻き込みたくないの、愚痴をきいてもらうくらい。

- ・ご近所との関係は？

→ 家が分からなくなったときに、たまたま近所の人のお世話になり、自然に伝わった。

デイサービスの時に、オモテで会ったときなど、立ち話で症状を伝えることはあった。

→ 母はコミュニケーションはできるので、周りの人は認知症とは思わない。金銭面でのトラブルを避けるため、銀行の人には相談し、協力してもらっている。

- ・今の状況は？

→ 誰も認識できなくなった。「明日の記憶」という映画のとおりになっていてつらい。

→ 今は2人で元気にしているが、将来、入所などしたときの費用面での不安が大きい。

- ・ヘルパーに来てもらうのを嫌がる人もいるが？

→ 介護をしている方も最初は抵抗があったが、一人では介護ができなくなってヘルパーを頼んだ。この時点で、本人は認識できていなかった。

→ 母は社交的なので抵抗ない。父は母がいればよい。

(4) その他

- ・西神中央あんしんすこやかセンター（TEL 996-2367）より、西区徘徊SOSネット「みまもん」の紹介があった。これは、地域の協力者にメールを送り、徘徊者の情報を求めようとするもので、地域の皆さんに登録（<https://www.nishiwel.or.jp/sos/>）をお願いしますとのこと

- ・このほか、徘徊の可能性のある方を事前に登録して、警察やあんしんすこやかセンターで情報共有する「高齢者安心登録事業」もあるとのこと